

竹取新聞

株式会社 カグヤ
東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング
2号館10階



第132版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤグループブログも
毎日元気に配信中!

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで
f 神家総本家 聴福庵

オンライン講演会



アンケートへの回答により、保護者同士のやりとりも誕生!

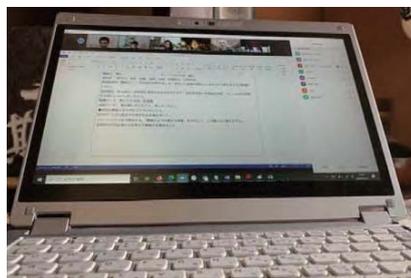
茨城県の大宝保育園様では、「早寝早起き朝ごはん」の第一人者でもある小児科医の先生より、毎年保護者への講演会を行っています。今年はコロナの影響で実施を悩む中「それでも大事だからなんとかやりたい」と、オンライン講演会を実施されました。当日は一緒に参加させて頂きましたが「子どもの不安・大人の不安を減らして子どもの発達を促そう」をテーマに、今後予測不能なことが起きる時、そこに立ち向かえるようにするにはどうしたらいいのかと考えさせられることばかりでした。

また、講演内容の面白さ、学び深さに加え、チャットを活用した保護者同士のやりとりにも感動しました。そこでは講演開始時のアンケートへの回答や、そこから発展した声もあがってきて、自粛期間中に子どもたちに手伝ってもらったり取り組んだことに対して「自粛期間中を無駄にしました」など素直に書き込む方もいれば、「今日から子どもと一緒にご飯つくってみます。」と、他の家庭を真似てみようとする方もいて、保護者同士がオープンに共感し合ったり、学び合ったりする場が生まれていたのです。保育に関して「やってあげる」ではなく「見守る」を大事にされている園ですが、世の中の価値観が変化し優先順位の判断が難しい中でも、このような主体性を引き出す環境を用意できるか、場づくりできるか、どこまで工夫しているかは、子どもにとっても大人にとっても共生していく上で大事なこともなかなかなしれないと、和やかな講演会から学ばせて頂きました。



進め方を試行錯誤中!
目で見て発表の順番を確認。

園様でも実践して頂いている「一円対話」ですが、遠隔でも行えないかと3月末から、試験的に社内でも取り組み始めました。普段は顔を見渡せる距離で円になり、互いから学び合うことを大切にしていますが、それを守りつつオンラインで実践するにはどうしたらいいかと回数を重ねながら改善を続けてきました。社内から「せっかく、ズーム一円対話に取り組んでいるのだから、園で一円対話を実践している先生にも声を掛けたらどうだろうか?」ということで、園の先生にお声掛けをしてご参加頂きました。これまで、先生方と一緒に「一円対話」を実施しようとすると、同じ場所に集まって行っていました。オンラインでは離れた場所同士でも行けるか、どこまで工夫しているかは、子どもにとっても大人にとっても共生していく上で大事なこともなかなかなしれないと、和やかな講演会から学ばせて頂きました。



一円対話後は、学んだことや真似したいことの振り返りも!



「今だからこそ」のその一つ。「GTチャンネル」が発足しました!!



スマホではこのQRコードをカメラで読み込んでいただく
と閲覧できます。

ズーム一円対話

園様でも実践して頂いている「一円対話」ですが、遠隔でも行えないかと3月末から、試験的に社内でも取り組み始めました。普段は顔を見渡せる距離で円になり、互いから学び合うことを大切にしていますが、それを守りつつオンラインで実践するにはどうしたらいいかと回数を重ねながら改善を続けてきました。社内から「せっかく、ズーム一円対話に取り組んでいるのだから、園で一円対話を実践している先生にも声を掛けたらどうだろうか?」ということで、園の先生にお声掛けをしてご参加頂きました。これまで、先生方と一緒に「一円対話」を実施しようとすると、同じ場所に集まって行っていました。オンラインでは離れた場所同士でも行けるか、どこまで工夫しているかは、子どもにとっても大人にとっても共生していく上で大事なこともなかなかなしれないと、和やかな講演会から学ばせて頂きました。

ドウ・シー・プラン

生まれました。 「オンライン」、「オフライン」のそれぞれの良さを活かしつつ、会員の皆様が自らの意思で選択できるセミナーの形を模索し始め、中止のお知らせをした第53回保育環境セミナーの開催を決定しました。 またYouTubeでは「GTチャンネル」を開設し、藤森先生から様々な情報が発信されるようになりました。その他には就職活動に影響が出始めている学生の皆さんにも何か支援が出来ないかと、「遠隔での園見学」の機会の提供を開始するなど、様々な動きが始まっています。 どんな時代も「子どもたちに残していきたい未来」を模索し、行動に移していく姿を私たちも大切にしていきたいと思っています。

保育環境研究所ギビングツリーには、コロナでの自粛期間に会員の方々から様々な声を頂きました。 「今、子どもたちに対して私たち大人はどうあるべきなのかを学ぶ機会が欲しい。」 「こんな時だからこそ、保育を見つめなおす機会が欲しい。」 「この機会にどんな保育実践をしているのかを知りたい。」 「オンラインで学べる機会が欲しい。」 そんなお声と共に、オンラインでのGT会議が進みつつ、藤森先生をはじめ、新宿せいが子ども園の先生方を中心に様々な企画が

カグヤでは、それぞれが別々の場所にも、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

人も自然も喜ぶ場所



人と自然が喜ぶ場所をありがとうございます。

緊急事態宣言が解かれ、数か月ぶりに「むかしの田んぼ」を訪れることができました。

今回はみんなが協力して自粛期間を乗り越えられたことへの慰労の意味もある中で、クルーの紹介で来て下さったゲストや子どもたちの笑顔も加わり、久しぶりに顔を合わせて語り合える喜びを噛みしめました。私たちが田んぼへ行けなかった間、農場の方たちが種まきから代掻き（田に水を入れ耕す作業）に、田植えま

で行って下さり、「むかしの田んぼ」を見守ってくれたお陰で稲たちはすくすくと育ち、今年は豊作の予感♪さらに全くと言っていいほど雑草が生えておらず、例年行っている草取りが必要ありませんでした！もちろん除草剤や農薬は使っていないので本来は雑草だらけのはず。これは通常1回の代掻きを2回行ったことと、稲の天敵であるはずのジャンボタニシが雑草をモリモリ食べてくれたことで起こった奇跡なのだそう。排除するはずの敵も味方につけてしまうほど、自然は人間の常識では計り知れないことばかりです。久しぶりの大きな空の下、いつも以上に自然の大きさを感じたのでした。



最初は恐る恐る…。でもトロトロの土はとっても気持ちいい！



土にいるのが影の功労者のジャンボタニシです。右上にはピンク色の卵が！

嘉祥菓子の室礼

先月、久しぶりに新宿の会社クルーが全員集合しました。緊急事態宣言以来、実に3ヶ月ぶりです。テレワーク中も毎朝遠隔で顔を合わせていたとはいえ、実際に会って話すと場の空気も手伝って話は大盛り上がり。そんな中、大きな紙袋を大量に抱えたクルーが登場。



紙袋の中には色々な種類の和菓子がいっぱい♪



6月30日に夏の邪気払いに食べるお菓子。小豆が邪気を払うと言われます。



季節感いっぱいの和菓子。日本の行事は風流ですね♪



「嘉祥」や「室礼」についてブログで詳しく配信中です。ぜひご覧ください！

「嘉祥の儀」では16個のお菓子やお餅などを神前にお供えして、疫病を除け健康招福を祈願したそうです。社内でも「嘉祥菓子」に室礼を整え、皆さまの息災を願っております。

どうやら6月16日の「和菓子の日」の由来でもある「嘉祥（かじょう）」の行事を、お越しになるお客様や皆と一緒に味わおうと、色々迷ったあげく爆買いしてきたらしいです。

一期一会庵

傍流の大切さ

以前、逆手塾を運営されていた故和田芳治さんから「傍流」であることの大切さについて教えていただいたことがあります。

「傍流」という言葉自体に馴染みがなく、どういう意味だろうとその時は思いましたが今思えばとても含蓄のある言葉だと感じています。

この傍流という意味は、いくつか解釈の仕方があります。本流から分かれた支流という意味、他には世の中には主流にはならず本流で生きるという意味、誰もがうらやむような花形から逸れた場所でも働く意味だったり、この「傍流」という言葉は生きる上では深い示唆があるように思えます。

民俗学の宮本常一さんの著書の中で、傍流の言葉を用いた文書があります。私はこの傍流の解釈が、和田さんの語る傍流の解釈をより具体的に示していることを感じました。そこにはこう書かれます。

「大事なことは主流にならぬことだ。傍流でよく状況をみていくことだ。舞台で主役をつとめていると、多くのものを見落としてしまう。その見落とされたもののなかにこそ大切なものがある。それを見つけていくことだ。人の喜びを自分も本当に喜べるようになることだ。人がすぐれた仕事をしているとケチをつけるものも多いが、そういうことはどんな場合にもつしまねばならぬ。また人の邪魔をしてはいけない。自分がその場で必要を認められないときは黙ってしかも人の気にならないようにそこにいることだ」（宮本常一著『民俗学の旅』）

一人ひとりのみんなが輝くというのは、「傍流」にいてこそはじめて輝くものがあるように思えます。英語にもアンサンブローという言葉もあります。これは「縁の下の力持ち」という意味です。傍流は、決して主流や本流から離れたものではありません。縁の下から支えて周囲を輝かせるという存在です。カグヤという会社は子どもたちのための触媒となり子どもを輝かせていくことを理念にしています。このまま傍流にいて、子どもたちのいのちを輝かせる場を見守り創造するために新しい暮らし方や生き方を実践していきたいと思えます。

編集後記



オンライン講座を受けています。子どもは柔軟に対応していきます。

非常事態が続いたことにより様々なことが一気にオンライン化し、遠隔では不可能だと思われていたことが次々と実現しています。その反面、オフラインでないと表現できないこともはっきりしたように思えます。医療や福祉はもちろん、今月の記事にもある田んぼもその一つで、言葉や動画で説明できても、土の感触は実際に触ってみないと分からないものです。

保育の現場でも「オンライン化できること」と「オフラインのまま残すこと」の展望が見えたという声が多く、これからは生きる子ども達に本当に必要なものが見える機会になったと感じています。最後に、この度の水害で被災された方々へ心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早く平穏な生活が戻ることを祈っております。（眞田由利）

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます



本社
〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング2号館10階
tel.03-5909-7155
fax.03-5909-7199

カグヤウェブセンター
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.03-3518-6217
fax.03-3518-6218

フリーダイヤル 0120-917-389
URL: <http://www.caguya.co.jp>
E-mail: support@caguya.co.jp
受付時間 月～金 9:00～18:00
(土・日・祝祭日を除く)